



# 小布施キャンパス化構想 実施報告書

2024年度 一般社団法人小布施まちイノベーションHUB

# 小布施キャンパス化構想の背景

マイナビ2023年卒大学生就職意識調査(※1)によると、近年新卒採用において「楽しく働きたい」という就職観を重視する学生が多くなっています。企業選びのポイントとしては「安定していること」が重視されています。安定を感じる要素としては「福利厚生が充実している」、「安心して働ける環境がある」があります。そんな中で、地方の中小企業においては安定性を強みとすることは難しく、若手人材の定着率が低いことが課題となっています。長野県においても、地元企業への就職率が低下しており、重大な問題となっています。(※2)

また、今後超情報化社会が加速される一方人間が認知できる情報量には限りがあります。石川は「大量の情報にさらされる人間は、認知的な許容量を超える状況にあり、情報の取捨選択を意識的または無意識的に行わざるを得ない」と指摘しています(石川幹人,2009)。Rinne, R., & Järvinenのcritical Thinkingでは、感性が豊かな人は、表面的な情報に惑わされず、情報の背後にある文脈や意味を理解する能力を持っていると書かれています(Paul & Elder, 2002)。つまり今後の社会や教育において、膨大な情報の中から本質的な課題を見極める感性を活用した情報処理能力が必要スキルであり、現代の日本教育において感性教育の重要性が今後さらに高まっていきます。

(※1)2023卒大学生就職意識調査(2023.12.4時点) <https://career-research.mynavi.jp/>

(※2)長野県(2024.8.21時点)重点目標6 就業率

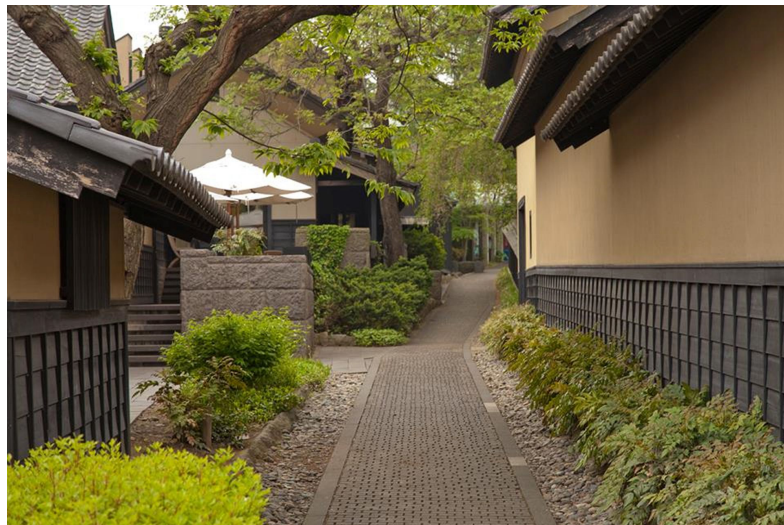
石川幹人(2009).「情報社会における認知行動研究」. 明治大学研究論文集.

Paul, R., & Elder, L. (2002). Critical Thinking: Tools for Taking Charge of Your Professional and Personal Life. Pearson Education.

# 小布施キャンパス化構想の背景

## 〈小布施町の背景〉

- ・ 小布施町－北信に位置。人口約1万人、直径5キロの町
- ・ 栗の名産地
- ・ 江戸時代から続く町内外の交流の文化
  - ・ 江戸時代 | 六斎市／高井鴻山と北斎（4度の来町）
  - ・ 1980年代 | 協働と交流
  - ・ 2000年代 | 小布施若者会議
  - ・ 現代 | 多様な教育機関、企業との連携
- ・ 想いと対話によるまちづくり  
(街並修景事業・OPEN GARDEN)
- ・ 多様な教育機関と小布施町の協働



# 小布施キャンパス化構想の目的

- プログラム参加者が年代問わず学び合いの環境をつくり、自分自身のありたい姿やキャリアへの関心度を上げること。
- 小布施地域の関心度をあげ、地域や地域企業への関心度を上げること。経営者の若手への考え方や関心度を上げること。
- プログラム自体を学生主体で行い、学生の企画力向上と自律的かつ継続的な活動としていくこと。

# 開催概要



## このまま終わらせたくない "わたしの学生生活"

「大学に入ったらこれやりたい」、「自分探しをしたい」と思っていたのにまだやれてない。せっかくの学生生活なんとなく過ごす日々でいいのか、なんか違う。そんな自分のモヤモヤや違和感などの感覚・感情を起点に自分を探究する学び場をつくる「小布施キャンパス化構想」。そのプロトタイプを3日間のプログラムとして行います。ぜひ一緒にキャンパスを作ってください！

### 3日間のステップ

Step1 | 自分の感情が揺れる感覚を知る  
・わたしの感情が揺さぶられる感覚を掴む感情ワーク

Step2 | 他者や場の想いに触れる  
・場にはめられた想いや小布施文化に触れる小布施のまち歩き  
・他者の想いを深ぼる地域のプレイヤー企業の人と対話の時間

Step3 | わたしの感覚・ありたいを表現  
・わたしの感情が揺れた瞬間を表現  
・わたしのありたいを書籍化！

プログラム後も月1回オンラインで1ヶ月の振り返りをする時間をとります

### 小布施町ってどんな町？

小布施町は直径5kmに収まる、人口約1万人の町です。旦那文化や200年企業など今も、これからも大切にされる歴史ある文化が継承され続け、まちづくりが盛んな町です。

### 参加後の状態例

・ずっと一歩が踏み出せなかったけれどアクションできた！  
・普段出会わない人と対話することで多様な価値観を知れた！

日時 | 2025年2月9日 - 11日

場所 | 小布施町内

対象 | 地域での活動やシゴトに興味のある  
高校1年 - 大学4年 (定員10名)

申込 | 2025年1月上旬から

参加費。スケジュールなど詳細はSNSで随時公開します！

主催 | 高等教育コンソーシアム信州

運営 | 小布施まちコンバージョンHUB 後援 | 小布施町・小布施町商工会



Instagram

2泊3日のプログラムを実施！

長野県立大2名、松本大1名、武蔵野大3名  
計6名の学生企画実行

・学生7大学8名、社会人3名、学生運営メンバー5名  
小布施町民6名の合計22名でプログラムを実施

(長野県立大学・長野大学・日本大学・東京農工大学・武蔵野大学・  
信州スポーツ医療福祉専門学校・東洋大学)



# 開催スケジュール

DAY1		DAY2		DAY3	
13:00	チェックイン	8:00	朝ごはん	9:00	チェックイン
13:20	オープニング	9:00	チェックイン	9:20	フリータイム
13:30	まちあるき	9:20	朝のフリータイム	10:20	対話
14:30	対話	10:20	対話	12:20	クロージング
15:30	ジャーナリング	11:50	ランチ	12:30	チェックアウト
15:40	チェックアウト	13:20	人の声を聞く		
18:00	ご飯を食べる	14:50	フリータイム		
		15:50	対話		
		17:50	ご飯		
		20:00	対話		
		21:00	チェックアウト		

# プログラム設計について

今回のプログラムで以下の4点を大切にしました。

- ①「感性を意識すること」をプログラムの前提に置くことで感性を育むことで自らのキャリアへの関心度を上げること

参考 | 石川幹人 (2009). 「情報社会における認知行動研究」. 明治大学研究論文集.

Paul, R., & Elder, L. (2002). Critical Thinking: Tools for Taking Charge of Your Professional and Personal Life. Pearson Education.

- ②フリータイムを多く設けることで自ずから生み出される（生成的な）環境を作りこの場だけでなく日常生活でも活かせる時間にする

参考 | 石黒和己 (2023) ウェルビーイングな学校づくりにむけて：生成の教育学とSELの公立高校での実践, 慶應SFC学会

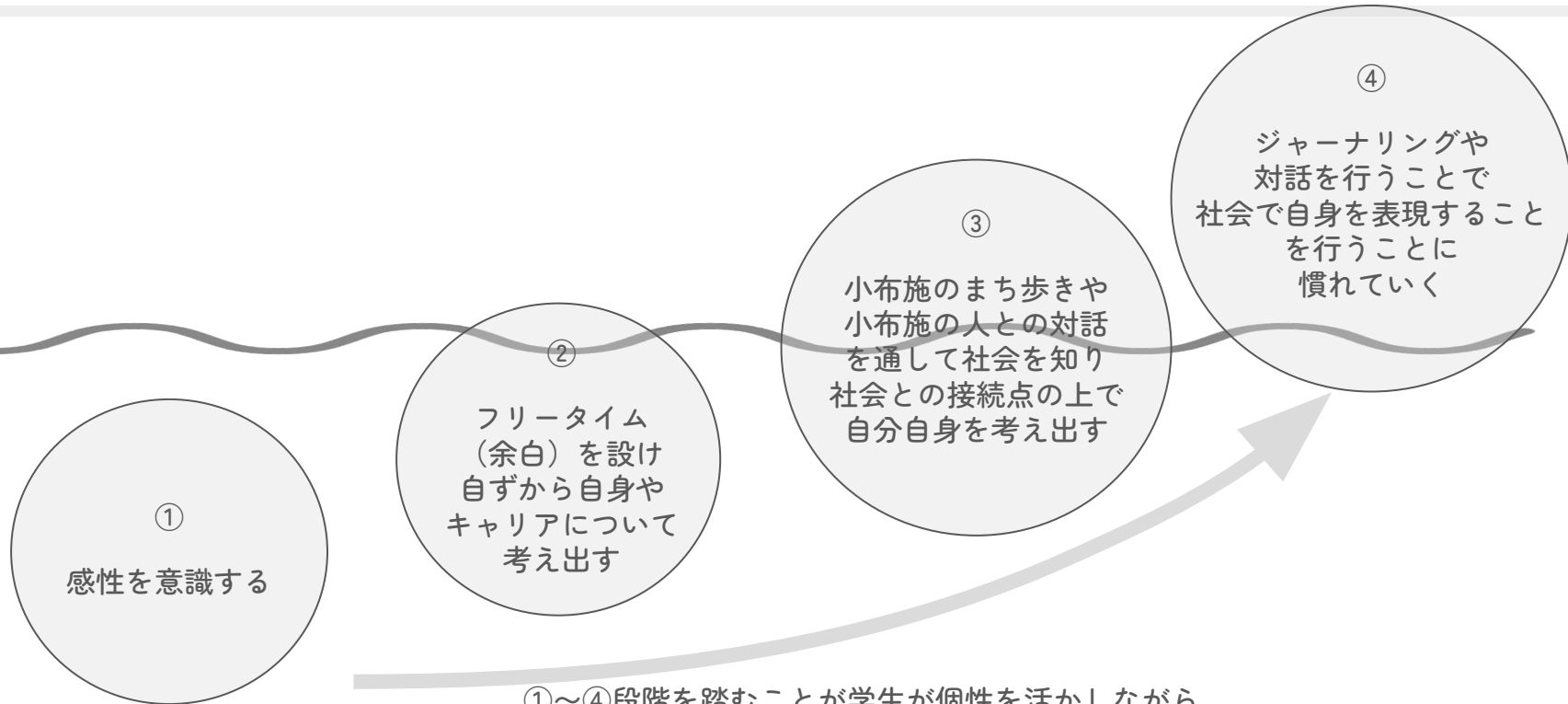
- ③小布施のまち歩き、小布施の方他の対話を行うことで小布施地域での原体験を生み出し地域への愛着を上げること

- ④対話やジャーナリング（1日の感じたことや考えたこと、印象に残っていることを記録するもの）を行い、想いや感覚の言語化を行うこと

# プログラム設計について

社会  
—  
外交的

わたし  
—  
内省的



①～④段階を踏むことが学生が個性を活かしながら  
社会との接続点を見つけていき主体的に生きる人材を育てることにつながる。



# 小布施キャンパス化構想で実施したこと

## 〈DAY 1〉

- ・チェックイン／自己紹介
- ・オープニング
  - ・この場ができた経緯、想い
  - ・意識して欲しい2つのこと
- ・まちあるき
- ・対話
- ・ジャーナリング／チェックアウト
- ・みんなでご飯を食べる

## 〈DAY 2〉

- ・チェックイン
- ・朝のフリータイム
- ・ランチ
- ・ひとの声を聞く
- ・フリータイム
- ・ごはん
- ・対話
- ・ジャーナリング／チェックアウト

## 〈DAY 3〉

- ・チェックイン
- ・フリータイム
- ・対話  
「わたしの感性/感情が動いた瞬間」  
それを踏まえての日々を考える
- ・ジャーナリング／チェックアウト

## 〈DAY 1〉

- ・チェックイン／自己紹介
- ・オープニング
  - ・この場ができた経緯、想い
  - ・意識して欲しい2つのこと
- ・まちあるき
- ・対話
- ・ジャーナリング／チェックアウト
- ・みんなでご飯を食べる

この3日間で意識してほしい2つのこと

①まず、等身大の“わたし”でいること

②2つのきくを意識して、その場を深めること

オープニングで、今回の企画の前提を2つ共有しました。  
立場関係なくありのままのわたしで場に参加すること、  
自分や他者、町に対して深く意識を向けることを前提に設けました。



まち歩きではまずはその場で自分の五感を開く五感ワークをし、  
自身の感覚で場を感じた後に、小布施町の歴史や想いが形になっ  
た場面を話しました。

## 〈DAY 2〉

- ・チェックイン
- ・朝のフリータイム
- ・ランチ
- ・ひとの声を聞く
- ・フリータイム
- ・ごはん
- ・対話
- ・ジャーナリング／チェックアウト



フリータイムでは、小布施のモンブランを楽しむ人もいればまち歩きで行った場所へ再度行き落ち着いた状況で自分の感覚に耳を傾ける人がいました。自然に参加者同士の対話が生まれました。



小布施人との対話では6名のゲストに来ていただき3グループに分かれて「活動する上で大切にしていること」をテーマに対話をしました。想いを形にする小布施人から刺激を受けている学生が多かったです。

## 〈DAY 3〉

- ・チェックイン
- ・フリータイム
- ・対話  
「わたしの感性/感情が動いた瞬間」  
それを踏まえての日々を考える
- ・ジャーナリング／チェックアウト



最後の対話では「3日間で感じた、学んだことを日常でどう活かすか」をテーマにしました。個々の立場で言葉を出していました。最終的には社会人の経営者と「働く環境においてどう自分の感覚を活かすか」という話が盛り上がっていました。



ジャーナリング・チェックイン、アウトを毎日行いました。アンケートにも「自分の心の中をジャーナリングすることで「自分」に触れ、「他者」にも触れ、「自分」の変化と「他者」の変化に気づきました」という声が出ました。

# 成果-全体



2泊3日のプログラムを実施！

長野県立大2名、松本大1名、武蔵野大3名  
計6名の学生企画実行

・学生7大学8名、社会人3名  
学生運営メンバー5名小布施町民6名の  
合計22名でプログラムを実施

・参加者（学生8名、社会人3名）の  
全体満足度5段階評価中4.75。



成果-プログラム参加者が年代問わず学び合いの環境をつくり、  
自分自身のありたい姿やキャリアへの関心度を上げること

### 等身大の自分でのいることの意識

前3.27 ⇨ 後4.36 変容率33.3%！-大きな変化-

### 2つのきくへの意識

前3.00 ⇨ 後4.27 変容率42.2%！-大きな変化-

### 自分の振り返り時間への意識

前2.75 ⇨ 後4.55 変容率85.19%！-劇的な変化-

### 感覚への意識

前2.73 ⇨ 後4.27 変容率56.67%！-劇的な変化-

### 学び合いへの意識

前2.73 ⇨ 後4.45 変容率63.3%！-劇的な変化-

このプログラムを通して、ありたい姿やはじめの一步が具現化されましたか？

5段階評価中4.0とほとんどの人が具現化！

成果-小布施地域の関心度をあげ、地域や地域企業への関心度を上げること

小布施町への関心はどのくらいありますか？

前1.64 ⇒ 後4.00 変容率144.4%！ -劇的な変化-

小布施町の人々からの声

「学生さんが若いのに考えや意見がしっかりしていて刺激を受けました。」  
「今までは学生の考えや価値観をどこかで否定していたが、自然と受け入れことができるようになった」などの声出て、地域の方が学生への興味を持ち始め  
接点づくりを行えました。



成果ープログラム自体を学生主体で行い  
学生の企画力向上と自律的かつ継続的な活動としていくこと



長野県立大2名、松本大1名、武蔵野大3名  
計6名の学生企画実行

9月より20回以上のオンライン打ち合わせ実施  
2回の対面打ち合わせ実施

アンケートから「誘ってくれてありがとうございます！  
そしてここでできた縁もっと続けていきたいですー！」  
「第二弾への参加を楽しみにしています！」など  
次回以降への運営参加の声も出てきた。

成果ープログラム自体を学生主体で行い  
学生の企画力向上と自律的かつ継続的な活動としていくこと

### 参加者から次回への参加意向

5段階評価中 4.64！ほとんどの人が参加希望

### 参加者の今後の小布施との関わり希望

- ・運営インターンとして関わりたい3人
- ・小布施のいろんな大学を繋げることに関わりたい
- ・対話相手として参加したい
- ・キャンパス化構想の他地域展開に関わりたい

# 今後について

## ・今回のプログラム参加者との継続的な繋がり

今回集まった参加者と今後半年間のオンラインの場を設け継続的な関わりに繋げる。

## ・企業接点のさらなる創出

小布施町の企業と学生を繋ぐ機会を設けることができたため今後もより活発な企業と学生の接点を生み出していきたい。

## ・町内でのインターンシップ実施検討

企業と学生の接点から、企業の学生への関心をさらに強め町内での実践型インターンシップの実施を検討していきたい。

## ・感性を育む学び場づくりの継続

今回テーマになった感性を育む学び場に関しては小布施町だけでなく他地域でも実施し小布施を拠点に全国で日本教育にさらに必要になってくる「感性を育む学び」を提供できるよう研究と実践を繰り返していく。